

# 令和元年度学校評価実施状況報告書

## 1 学校評価の流れ

年度当初に「教育方針」の理念、教育目標、重点項目を踏まえて、それらの実現に向けて各校務分掌・学年団・教科・学科がそれぞれ重点目標と具体的方策を設定した。評価にあたっては、自己評価としてそれぞれの重点目標がどの程度達成できているかを問う形で、2回の評価を行った。10月に上半期における取組に対する中間評価を行い、2月下旬には下半期を加えた年間評価を実施した。保護者からの評価や教員間での相互評価を得るために、12月に保護者および教職員を対象にそれぞれアンケートを実施した。

それらの集計結果等を参考に、2月下旬には各校務分掌・学年団・教科・学科が今年度の成果と課題を総括し、来年度に向けての改善策をまとめた。また、2月下旬の学校評議員会（学校関係者評価）で、学校の取組に対する意見・感想をいただき、今年度の学校評価を終えた。

### 《学校評価年間計画》

	生徒	保護者	職員	学校評議員
4月				・委嘱
5月	・授業評価の項目検討	・公開授業アンケート ・PTA総会 (前年度評価結果)	・学校評価 年間計画策定 ・学校自己評価 重点目標等策定	
6月				・第1回学校評議員会 (学校評価年間計画)
7月	・授業評価 ・学校生活に関する 調査(第1回)	・学級懇談会 ・教科書選定 (PTA役員代表)	・授業評価分析	・教科書選定 (学校評議員代表)
8月	・授業評価報告			
9月		・総合祭		・総合祭
10月		・学校教育評価 項目検討	・学校自己評価 (上半期)	
11月		・公開授業アンケート		・公開授業アンケート
12月	・学校生活に関する 調査(第2回)	・学級懇談会 ・学校教育評価実施	・学校教育評価実施	・学校関係者評価 項目検討
1月	・インターンシップ アンケート (総合学科1年)			
2月	・インターンシップ アンケート (工業科2年)	・学校教育評価 結果報告 (PTA評議員会)	・学校自己評価(年間) ・成果と課題、改善策 の取りまとめ	・第2回学校評議員会 (学校関係者評価)
3月				

## 2 評価結果のまとめ

### (1) 学校自己評価結果

各校務分掌・学年団・教科の今年度の取組に対する自己評価結果は、4段階評価のうち3＝「だいたいできている」がほとんどである。機械科のみが、中間評価で2＝「少しできている」であったが、年間では「2」の評価はなく、ほとんどが「3」であった。電気科が中間評価の4＝「よくできている」が、年間評価で「3」となったのは、資格試験の合格状況によるものである。全体を通してみると、控えめに「3」としているのではという項目もあるが、これは、結果が明確である場合や、数値で良い結果が出ないと最上位の評価とはしづらいのではないかとと思われる。

統合3年目となったが、統合前のそれぞれの取組がすべて融合したとはいえない中で、年間では「2」の評価がなかったことから、概ね当初の目標を達成したと言える。

### (2) 学校教育評価（保護者アンケート）の分析と考察

昨年度と同様に、校務分掌、学年団の取組について、すべての質問項目に対して、A＝「そう思う」、B＝「だいたいそう思う」の肯定的な回答がほぼ8～9割である。E＝「判断ができない（わからない）」の回答がやや多くなっている教育研究部、教育相談部は、具体的な取組の内容が保護者に伝わっていないと考えられる。同じくEの評価がやや多い教育情報部は、ホームページ等を見ていない方がいるためだと思われる。アンケートに回答していただけるよう、学校の情報が保護者に伝わるよう努めたい。

保護者からいただいた意見では、本校の教育活動について、文化祭や地域交流、ロボット競技や商品開発などについて賛辞をいただいた。学校からの情報発信については、近隣の高校で利用されているスマートフォンを使った学校と保護者の連絡方法の導入の要望もあり、現状の連絡方法に加えて新しい手段の導入について検討していきたい。

### (3) 学校教育評価（教職員アンケート）の分析と考察

プラス評価よりマイナスの評価の方が多くない項目はないが、業務の効率化、簡素化、校内人事や校務分掌については他の項目と比べるとマイナス評価が多い。また、会議で話し合う機会が持たれているかという項目もマイナス評価がやや多く、業務量が多いことや負担に偏りがあることが推察できる。基本的な生活習慣を育成しているかという項目は、保護者と比べると教員の評価が低い。教員は多くの生徒を統一した視点で見ているが、保護者は自分の子どもを中心にしているからだと思われる。

教職員からの意見では、工業科と総合学科で学級運営や生活指導等で統一できていないことがあるとの指摘が複数あった。統合3年目となったが、これからも学校全体で一体感が持てるように努力する必要がある。

### (4) 学校関係者評価

- ① ホームページやFacebook、学校だより等での学校生活や行事様子などの情報提供はよくできていると思うが、情報提供についての保護者の評価がやや低いのは、それらを保護者があまり見てくれないのではないかと、もっと見てもらうようアピールが必要ではないかという意見をいただいた。
- ② ローソンと共同のスイーツの開発・販売は地域おこしに役立っているという意見や、香川西部養護学校や近隣の保育所、幼稚園、小学校との交流などを続けていることにより、本校を身近に感じるが多くなったという声を聞いているという意見をいただいた。
- ③ 部活動が以前と比べると元気がないのではないかとという意見をいただいた。このことは、教職員も認識しており、今後の課題である。
- ④ 教職員アンケートの分析にもあるように、業務の効率化、簡素化、校内人事や校務分掌についての評価がやや低いことから、先生方の不満や余裕がないことが分かるという意見をいただいた。

## 3 次年度の課題

- ① 本校の多様な教育活動を継続させるとともに、学校からの情報をより早く、分かりやすく保護者や地域の方に伝える工夫が必要である。
- ② 学校関係者評価にあるように、部活動の活性化が課題である。
- ③ 教職員の業務量はまだまだ多く、特に一部の教職員の負担が過多であると思われる。さらに、業務の効率化や簡素化等を進めなくてはならない。